

近畿支部

神在月の国から高校生がやってきた

はじめに

近畿支部だよりですが、私の母校の鳥根県立出雲高等学校にまつわる話題を提供します。同校は、理数系教育の充実を図ろうと、昨年10月（出雲では神在月）に1年生全員320名を対象に、「関西先端体験研修」を企画し、関西地方を訪れました。9日、11日には半分に別れて大阪大学とSPring-8に、10日には全員が京都大学にきました。私は、京都大学側の受入れに携わった関係上、そのいきさつや当日の様子を報告します。

同窓のよしみ

母校の関西同窓会のつてを頼りに理科の渡部教諭から私に依頼が来たのが半年前の3月のことです。同窓のよしみで依頼を引き受けざるを得なくなりました。しかし、100名程度なら個人レベルで協力を仰げますが、320名は多すぎます。

そのため、他部局の協力も得ることが必要と考え、これまた同窓のよしみで、薬学研究科の中山先生、iCeMS（アイセムス）の富田先生から力強いご協力を得て、他部局でも受け入れをご承諾いただきました。最終的に工学研究科（化学系（40名）、機械理工学系（25名））、薬学研究科・医学研究科人間健康学系（80名）、iPS細胞研究所・アイセムス（30名）、理学研究科地球惑星科学系（25名）、防



災研・生存圏研（80名）での実施が決まりました。このほか、京都市産業技術研究所の所長の西本清一先生（昨年度まで当専攻に奉職）にも快諾していただきました（40名）。中高生の受入れは京都大学でも昨今多く見受けられますが、毎夏のオープンキャンパスを除けば、各部局にまたがってこの規模で行なわれた例はないかもしれません。

最高のタイミング

10月10日の当日、出雲高校生がやってきました。2日前の山中先生のノーベル賞受賞という絶好のタイミングでした。さすが八百万の神の国からきた生徒は違います。午前中は、京大百周年記念ホールにて全員が講演を聴きました。私は、「新物質の発見の魅力—室温超電導を目指して—」というタイトルで講演をしました（もう一人は火山のお話）。中高での出前授業の経験はありますが、母校の生徒を前にしての講演はやはり格別のものがありました。我が母校は例年京都大学には数名しか入りませんが、「50名は入学して下さい」と発破をかけたの

で2年後を楽しみにしています。

午後は、各所に散らばって実験研修を行いました。工学研究科の化学

系では、材料化学専攻の田中勝久教授、三浦清貴教授、物質エネルギー化学専攻の安部武志教授、阿部竜教授、近藤輝幸教授と私の研究室で簡単な実験を行いました。私のところでは、高温超電導体を使った簡単な実験をしましたが、皆（化学の教員も）初めて観る超電導体に興奮していました。写真は、実験後の記念撮影です。

おわりに

出雲高校では伝統的に修学旅行はなく、私の時代には大山でキャンプをしていました。自然に恵まれた出雲でその効果は疑問です。一方、今回のような最先端の科学に触れる機会は田舎ではほとんどないはずで、彼らにとって貴重な経験になり、今後活かされていくことを願っています。また、文系理系に別れる前の1年生を対象にした点も良かったのではないかと思います。

〔2012年度近畿支部幹事 陰山 洋（京都大学 工学研究科物質エネルギー化学専攻）〕

©2013 The Chemical Society of Japan